



『DEIと「しそう自立の家」』

本 條 昇 会 員

1. DEIと「共生社会」

DEIとは、「Diversity、Equity、Inclusion」の頭文字で、それぞれ「多様性、公平さ、インクルージョン（包摂）」と訳されています。

Diversity & Inclusionとは、集団が、一人ひとりの違い、多様性を認め、受け容れて、その全てが尊重され、評価されるような環境を作ることです。そこにEquity、公平さの観点加わってDEIとなりました。

従来の「バリアフリー」「ユニバーサル」は、先ず障害者や高齢者を「生活弱者」として健常者と線引きした上で、生活弱者が暮らし易い社会環境を作ろうという、いわば健常者目線の発想でした。DEIは、そんな線引きそのものを意識の中から無くしていくことを目指しています。そのゴールは、多様な人々が分け隔てなく共に自分らしく生きることができる社会、いわゆる「共生社会」の実現です。

「共生社会」のトレンドに関しては、皆さんも、ここ数年の社会の変化を感じておられると思います。端的に変わってきたのが「性同一性障害」の分野です。十年ほど前に「LGBT」という言葉が登場して以来、一気に「性的マイノリティ」概念が市民権を得るに至りました。

これに連れて、「性的指向」「性自認」「同性婚」といった、たぶん昔であればタブーとされていたテーマも、オープンに議論されるようになりました。こうしてみると、近時DEIは確実に時代を読み解くキーワードとなっております。

2. ロータリーに於ける「多様性」とDEIの流れ

ロータリーに於けるはポール・ハリスの時代から、「多様性」は奉仕や親睦と並んで組織文化の中核を成す価値観の一つでしたが、その中味は時代と共に進歩してきました。そして正にいま、ロータリーの多様性は時代に応えようとしています。

その一つの表れとして次年度、史上初の女性RI会長が誕生します。彼女の名前はジェニファー・ジョーンズ。彼女は当然の成り行きとして、DEIを自らの重点項目に掲げました。

2019年、RI理事会はロータリーに於けるDEIの方針を、次の通り採択しました。

「ロータリーは（中略）、多様性を重んじ、年齢、民族性、人種、肌の色、能力、宗教、社会的地位、文化、性別、性的指向、性自認に拘わらず、あらゆる背景を持つ人

の貢献を称える。ロータリーは、少数派グループが、会員及びリーダーとして参加できる機会が多く存在する、多様で、公平で、開放的な文化を育む。」

(ロータリー章典26. 130)

2020年、DEIをロータリーの組織文化として根付かせるべく「DEIタスクフォース」という特命委員会が設置され、昨年には、新たな「DEIへのコミットメント」が採択されました。そしてこの度、個々のロータリアンにとっての実践ガイドラインとして、「DEI行動規範」が纏められた所です。恐らくは、次年度から本格的に、DEIに向けた取り組みが強調されることになるのではないかと思います。

3. 「自立の家」建設の理念

何十年も前にDEIの理念を提唱し、身を以て実践されたロータリーの先達が、我々の身近におられました。当地区のPastorガバナーで元RI理事でもある故今井鎮雄先生です。

1950年代から障害をもつ子どもの支援に努めてこられた今井先生が、障害者が地域社会の中で主体的に暮らす「家」として運営される「チェシャーホーム」の理念に共鳴して、社会福祉法人ひょうご障害福祉事業協会によって3つの「自立の家」が開設されました。

最も新しい「しそう自立の家」は、坂井元兵庫県知事ゆかりの波賀町の土地に作られましたが、2018年の西日本豪雨以降、「土砂災害特別警戒区域」に指定されて、入居者に万一のことがあっては取り返しがつかないとの思いで、安全な場所への移転を決断され、この度、山崎町与位への新築・移転という一大プロジェクトが完成を迎えました。

最初のチェシャーホームとなった「はりま自立の家」建設（1981年）の際も、当クラブの協力があったとお聞きしております。

当時、今井先生は設立の理念として、こう呼びかけられたそうです。

「平和な社会とは、協力の中から生まれる「共に生きる社会」に他ならないと思います。今、私たちは一つの施設を作ろうとしているのではなく、このような人間の理想社会の建設を夢見ながら「自立の家」を建設したいと思っています。」

この理念はDEIの発想そのものです。今井先生はチェシャーホームという施設を通して、遙か先の理想社会、即ち、障害のある人もない人も分け隔てなく共に自分らしく生きることができる「共生社会」の建設を夢見ておられたのです。

この設立の理念を受け継いで、新しい「しそう自立の家」は、「持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のために」をモットーにデザインされました。この施設がDEIの地域拠点となって、地元との交流を通じて、当地に於ける「共生社会」推進の輪が広がることを願っております。

4. 当クラブの取り組み

今井先生は、その先駆的なアイデアを「自立の家」という形にして、後の世代に託されました。それから40年を経て、世界は先生が夢見た理想へと動き始めています。

ロータリーが今後DEIにコミットしていく中であって、当クラブとしては、今井先生が当地に於いて実践された「自立の家」というプロジェクトに学ぶ所が大きいと考

えます。

そこで次年度、当クラブでは、「しろう自立の家」と一緒に「共生社会」の推進とDEI理念の普及を目指した社会奉仕事業（地区補助金プロジェクト）を計画しています。皆様には宜しくご協力のほどお願い申し上げます。

プロジェクトの直接的な受益者はコンサートの参加者ではありますが、我々にとってもまたとないDEIの学びの機会となることと思います。

人にはそれぞれ、心と体の特性があります。その特性が障害となるかどうかは、社会の側にかかっています。人々の中で、人と人を隔てる線引きが無くなって、遠からず「障害」という言葉を使わずに済むようになればと思っております。

以上